

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を食い荒らし、枯死させる特定外来生物である。和歌山県では、令和元年11月にかつらぎ町で初めて本虫によるモモへの被害が確認された後、県北部地域で被害が拡大しており、今後日高地方への侵入・被害拡大が懸念されている。

5月28日～6月3日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒と蔓延防止のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査（延べ57名参加）した。

サクラ樹の主幹根元から4m位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園での発生状況調査として、日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、140園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されなかった。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者はもちろんのこと、一般住民への啓発も並行して行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況等を調査（みなべ町[左]、美浜町[右]）

2. 地元の花で心を華やかに・・・ 「花育」活動を実施

5月14日、日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）と日高地方花き連合会（会長：弓倉弘氏）は、日高地方の小学校を対象とした「花育」活動を両会の共催により実施した。この活動は、子供たちへの情操教育の一環として、花とふれあう機会を通して豊かな心を育むとともに、全国有数の花き産地である当地方の花の生産について知って欲しいと毎年実施しているもので、今年で13回目となる。

「花育」活動にあたっては、管内の花き生産者からスターチスや宿根カスミソウ、カーネー

ションなど約 3,000 本が提供され、それらを花き連合会役員および農業水産振興課員が花束に加工。日高地方の花を紹介したパンフレットや、クリアファイル、先生用の参考資料とともに管内の小学校 31 校の 5・6 年生（74 クラス、1,225 名）に届けた。また、希望のあった 5 校では贈呈式を行い、うち 4 校ではミニ花束づくり体験を実施した。

日高川町立川辺西小学校では、5 年生を対象に贈呈式が行われ、平林会長と弓倉会長らが児童代表に手渡し、日高地方の花き生産や花の飾り方などの講話を行った。平林会長は「日本一の生産量を誇るスターチスなど、日高地方ではいろいろな花を作っています。今日は生の花に触れて親しんでください」とあいさつした。続いて、花き連合会の弓倉会長と木村文俊理事が「花瓶の水は毎日交換してください。直接日に当たらない風通しの良いところに置くと花は長持ちします」と話した。

その後、ミニ花束づくり体験を行い、児童らは「花が大好きで楽しみにしていました。持って帰って毎日水を換えてあげます」と笑顔で話していた。最後に児童らから「花を作っていてよかったことは何ですか」、「スターチスは何種類ぐらいありますか」など質問があり、弓倉会長は「花を作っていると心が和み、豊かな気持ちになります。スターチスは約 60 種類あります」と答えた。

今後も、「花育」活動への支援を始めとする普及活動を展開し、花き産地の更なる発展に取り組む。



贈呈式（由良町立衣奈小学校）



ミニ花束づくり体験（みなべ町立岩代小学校）



作った花束を持って記念撮影（日高川町立川辺西小学校）